

平成 27 年度

国・宮城県全体のトピックス

4 月

1 日：任期付職員と新規採用職員の辞令交付式

復旧・復興業務に携わる任期付職員の辞令交付式が、県庁 1 階みやぎ広報室にて行われました。4 月の採用人数は合計 66 名で、復興事業で職員不足が顕著になっている土木や建築、用地補償事務などの業務を県の機関や被災市町で行うこととなっています。また、同日、新規採用職員の辞令交付式も県庁 2 階講堂で行われました。

12 日：復興大臣との意見交換

集中復興期間後の復興財源の枠組みについて、竹下復興大臣と村井知事及び沿岸被災市町の 15 首長により意見交換が行われました。

13 日：蔵王山火口周辺警報が発令

仙台管区気象台から蔵王山の火口周辺警報が発令され、火口から概ね 1.2km の範囲が立入規制となりました。澄川スキー場入口から蔵王山山頂につづく蔵王エコーラインは、想定火口域から約 2 km の澄川ゲート（スキー場入口付近）で、通行止めとなりました。

24 日：震災復興推進会議の開催

平成 28 年度以降の復旧・復興事業のあり方について協議が行われました。これにより、復興の基幹的事業や原子力事故災害に由来する事業の特例措置は継続となりましたが、それ以外の事業については一部負担及び一般会計での事業実施となりました。

土木部のトピックス

1 日：辞令伝達式を開催

新規採用職員 40 名、自治法派遣職員 111 名及び任期付職 3 名が土木部に配属となり、遠藤部長による辞令伝達が執り行われました。

4 日：岩手・宮城・福島被災 3 県土木部長要望

国土交通省、復興庁、県選出国会議員に対して「集中復興期間の延長及び特例的な財政支援の継続を求める要望」及び「国が行う復旧・復興事業の整備促進と全面的な財政支援の継続を求める要望」を行いました。

6 日：アジアナ航空「仙台-ソウル線」就航 25 周年セレモニー開催

就航 25 周年を記念して、仙台空港でセレモニーを開催し、関係者によるテープカットや韓国民族舞踊の披露などを行いました。

14 日：自治法派遣職員研修を開催（～16 日）

自治法派遣職員 99 名を対象として、宮城県の被災状況、復興状況等の現状や工事積算・監督・検査など宮城県での実務に関する研修を開催しました。

24 日：河北桃生線バイパスの供用開始

河北桃生線と河南米山線の交差点部は、車道の幅員が狭く、通行車両の交通に支障をきたし交通渋滞が発生していたことに加えて、歩道の幅員も狭いため交通事故の危険性がありました。そのため、バイパスを新たに整備し歩車道の幅員を確保することで、歩行者の安全確保と渋滞の緩和を図りました。



1 澄川ゲート通行止め



2 辞令伝達式



3 岩手・宮城・福島被災 3 県土木部長要望



4 就航 25 周年セレモニー



5 自治法派遣職員研修



6 河北桃生線バイパスの供用開始

平成27年度

国・宮城県全体のトピックス

5月

19日：ソーラーフロンティア東北工場竣工式

大衡村の第二仙台北部中核工業団地にソーラーフロンティア株式会社の東北工場が完成し、竣工式に村井知事と萩原大衡村村長が出席しました。ソーラーフロンティア株式会社は、経済性に優れ、環境に優しい「CIS 薄膜太陽電池（銅、インジウム、セレンを使用した化合物系の太陽電池）」の研究開発・生産・販売を行っています。ソーラーフロンティア東北工場は、現在、商業生産に向けた立ち上げを行っており、量産体制を整えて、東北や北関東を中心に太陽光パネルの供給を行います。7

30日：JR 仙石線 全線運行開始 8

東日本大震災により甚大な被害を受け一部不通となっていた仙石線は、「高城駅」～「陸前小野駅」間の運転を再開し、「あおば通駅」～「石巻駅」間の全線運転再開となりました。また、東北本線と仙石線間に両線を結ぶ接続線を整備し、仙石東北ラインとして開業しました。本線の開業により仙台～石巻間が最短52分で結ばれました。両線の運転再開・開業により利便性が向上し、復興支援の加速化に貢献するものと期待されます。

30日：第3回千年希望の丘植樹祭

岩沼市「千年希望の丘」において、3回目の植樹祭が開催されました。当日は5,000名のボランティアが約5万本の植樹を行いました。



7 工場竣工式



8 JR 仙石線の全線運行開始



9 仙台港を中学生が見学



10 第1次災害査定の様子



11 東部土木事務所出前講座を開催



12 津波防災シンポジウムの様子

土木部のトピックス

15日：仙台港を中学生が見学 9

福島県小野町立小野中学校2年生が仙台港の施設の見学に訪れました。フェリーターミナルと高砂コンテナターミナルを仙台塩釜港湾事務所の職員が案内し、仙台港の役割や港に停泊している貨物船などについて説明しました。生徒の皆さんからは、コンテナターミナルのクレーンやストラドルキャリアの迫力がすごかった、フェリーの大きさに驚いた、といった感想が寄せられました。

20日：第1次災害査定（～22日）10

平成28年3月の豪雨により被害が発生した公共土木施設について災害査定を実施しました。県管理分については、仙台土木事務所管内で7件、約1億円の査定決定となりました。

21日：東部土木事務所出前講座を開催 11

東松島市立矢本第二中学校第1学年の総合学習の一環として、「石巻地域における震災復興について」と題し東部土木事務所による出前講座が行われました。被災状況、復興まちづくり計画、震災の伝承、復旧復興事業などについて説明し、生徒の皆さんが地元の復旧復興や、将来のふるさとの姿について考える機会となりました。

30日：津波防災シンポジウムを開催 12

山元町中央公民館において「津波防災シンポジウム」を開催しました。基調講演として公益財団法人「ひょうご震災記念21世紀研究機構」副理事長兼研究調査本部長の室崎益輝氏に御講演いただきました。また、「伝承サポーター」認定式を行い、伝承サポーターに認定された個人・団体の方々に認定証を贈呈しました。

30日：常磐自動車道「鳥の海スマートIC」着工式

亘理町とNEXCO 東日本は、平成27年度の完成を目指して、鳥の海スマートICの事業を進めており、この度、本格的な工事に着手することから着工式が開催されました。鳥の海スマートICは、山元IC～亘理IC間のほぼ中間に位置した鳥の海PAへの接続型のスマートICです。近隣には亘理中央工業団地、観光地の鳥の海などがあり、企業誘致や雇用の促進、観光集客の増加などが期待されています。

平成 27 年度

国・宮城県全体のトピックス

6月

15日：「東日本大震災アーカイブ宮城」公開

宮城県図書館 HP にて県内 35 市町村と連携・協力して構築した東日本大震災関連資料（映像、音声、動画、文書など）の公開が始まりました。

17日：天皇后両陛下が宮城県を御訪問 13

天皇后両陛下が私的御旅行として宮城県を訪問されました。はじめに蔵王町の北原尾地区において、戦後にパラオから入植された方々の功績をたたえるため建てられた開拓記念碑を視察されました。その後、白石市の国立花山青少年自然の家南蔵王野営場を訪問され、「第 48 回全国植樹祭（1997 年）」において植樹されたブナとオオヤマザクラの成長を確認されました。



13 天皇后両陛下が宮城県を御訪問



14 第 5 回復興道路会議



15 宮城県港湾復興大会



16 川内沢川放水水路竣工式



17 コンテナ北米西岸定期航路の新規開設



18 土木部防災訓練

土木部のトピックス

4日：第 5 回復興道路会議～宮城県～ 14

復興道路等の早期完成を図るため、三陸沿岸道など復興道路、復興支援道路の整備状況を情報共有し、道路整備を町づくりに生かしていく方策など話し合いました。

5日：宮城県港湾復興大会 15

宮城県港湾協会による「港湾復興大会」が開催され、宮城県の港湾復興に関する決議が採択されました。

6日：川内沢川放水水路竣工式 16

川内沢川では、平成 6 年 9 月 22 日集中豪雨による甚大な浸水被害を契機に上流に川内沢ダム、仙台東部道路より下流では放水路の建設に着手し、事業着手から約 20 年の歳月をかけ、放水路が完成しました。式典には、約 100 名の方に参加いただき、関係者への感謝の意を表するとともに、仙台空港を含む沿川地域の治水安全度が向上することを広くお伝えすることができました。

8日：コンテナ北米西岸定期航路の新規開設 17

北米西岸と仙台港とを結ぶ航路が就航しました。既存の北米西岸航路では仙台塩釜港が日本でのラストポートとなる輸出に適した航路であるのに対し、今回の新規航路は、仙台塩釜港が日本でのファーストポートとなる輸入に適した航路であり、仙台塩釜港（仙台港区）の新たな魅力となるものです。北米航路 6 航路となり、海上輸送の選択肢が一層広がることで、本県をはじめ東北各県に立地する企業の輸出入の利便性がさらに向上することが期待されています。

11日：土砂災害防止に関する講習会を開催

市町村職員を対象に、土砂災害防止に関する知識を深め、警戒避難体制の整備を促進するため、講習会を開催しました。今年度からパソコンを用いたハザードマップ作成支援システムの実技講習や、市町村間の意見交換会も実施しました。

12日：土木部防災訓練を実施 18

今後起こり得る大規模地震・津波等に対する防災体制の確立と防災意識の高揚を図るため、宮城県震災対策推進条例に定める「みやぎ県民防災の日」（6月12日）に合わせ、土木部防災訓練を実施しました。

16日：ユナイテッド航空「仙台-グアム線」

就航 25 周年「ミスグアム」の皆様が来県し、県民にテレビ番組等でグアムへの旅行を PR しました。

18日：蔵王山噴火対策砂防計画検討会

蔵王山火山緊急減災砂防計画を踏まえ、県内の公共土木施設管理者が連携し、火山噴火への対策となる行動計画を策定する検討会を実施しました。

平成27年度

国・宮城県全体のトピックス

7月

1日：仙台・宮城【伊達な旅】夏キャンペーン2015開幕

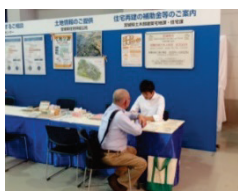
7月から9月末までの3ヶ月間、「仙台・宮城【伊達な旅】夏キャンペーン2015」が開催されました。仙台・宮城では、平成24年度から平成26年度までの3年間、春の観光キャンペーンを展開しており、平成27年度は春から夏に季節を移し、仙台・宮城の多彩な夏を全国の皆さんに体感していただきました。

17日：「宮城ふるさとプラザ」リニューアルオープン 19

首都圏における宮城県の情報発信拠点「宮城ふるさとプラザ」がリニューアルオープンしました。入り口には、伊達政宗公の兜の前立て「三日月」をイメージしたエントランスを設置しました。



19 「宮城ふるさとプラザ」リニューアルオープン



20 住まいの耐震博覧会すまい元気フェア



21 宮城県建設工事表彰式



22 青根蔵王線が開通



23 玉浦西まちびらき



24 第22回水と森と風のくに祭り

土木部のトピックス

11日：住まいの耐震博覧会すまい元気フェア（～12日） 20

夢メッセみやぎで行われた、民間会社主催の住まいに関する情報を発信するイベントに宮城県職員を派遣し、二重ローン補助などの住宅再建支援制度や各種住宅施策等についての相談に対応しました。

15日：宮城県環境アドバイザー会議

県では東日本大震災の河川・海岸災害復旧工事の実施にあたり、「宮城県環境アドバイザー」の助言・指導をもとに環境に配慮した復旧工事を進めています。

16日：宮城県建設工事表彰式・事故防止対策推進大会を開催 21

宮城県建設工事表彰式は、県が発注した工事のうち優良な工事を施工した施工業者及び安全管理に対する取組が優良であった現場代理人を表彰するもので、平成27年度は、82社、95名が受賞されました。

17日：青根蔵王線が開通 22

平成25年10月の台風26号で発生した土砂崩れにより約1kmにわたり通行止めとなっていた青根蔵王線が開通しました。

19日：岩沼市玉浦西まちびらき開催 23

岩沼市玉浦西地区において「玉浦西まちびらき」が開催されました。玉浦西地区は平成24年8月から土地の造成工事に着手し、平成27年2月には、鍵の引き渡し式が開催され完成した住宅の引き渡しや入居が始まりました。

19日：漆沢ダムの「水と森と風のくに祭り」 24

漆沢ダム湖畔において、第22回水と森と風のくに祭りを開催しました。今年度は、天気にも恵まれて参加者約330人と祭りを盛大に行い、特にイワナのつかみ取りなどは子供たちに大好評でした。

23日：みやぎ県北高速幹線道路 安全祈願祭

みやぎ県北高速幹線道路IV期区間（築館工区）について、本格的な工事に着手することから、安全祈願祭が開催されました。祈願祭には、関係者約30名が出席し、道路改良工事の安全を祈願しました。

30日：復興まちづくりパネル展開催

県民の皆さまがより身近な場所で復興へのあゆみを実感できるよう、宮城県、石巻市、東松島市、女川町が合同で、「イオンモール石巻」店舗内のほか、仙台市の青葉通地下道ギャラリーにおいて、みやぎの復興まちづくりパネルを常設展示しました。

平成 27 年度

国・宮城県全体のトピックス

8月

4日：「宮城県企業立地セミナーin Tokyo」開催 25

東京都において開催された企業立地セミナーには、企業 203 社 368 名の方々がご来場され、大盛況となりました。東日本大震災からの復旧・復興状況や復興への取組をパネルにより紹介したほか、宮城県ブースにおいて、県内への企業誘致に向けた PR 活動を行いました。

5日：タグボート「宮城丸」が就航 26

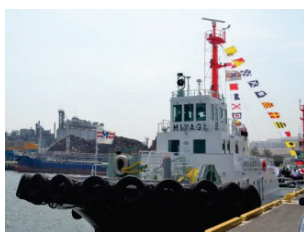
「石巻港」は東北唯一の国際拠点港湾「仙台塩釜港」の一港であり、また国際バーク戦略港湾の連携港であるため大型船舶が入港しますが、「宮城丸」はこの石巻港において重要なタグボートになります。これからは、既に配備されている「蔵王丸」との二隻体制で運営されることになり、石巻港の物流機能がより一層向上し、港の安全・安心が高まりました。

27日：みやぎ復興現場訪問事業

東日本大震災からの復興に取り組んでいる企業や団体などを知事が訪問する「みやぎの復興現場」訪問事業を実施しました。この日は、仙台地方振興事務所管内において、「特別養護老人ホーム赤井江マリンホーム」「荒浜にぎわい回廊商店街」「鳥の海ふれあい市場」「農事組合法人仙台イーストカントリー」を訪問し、復興の現状や課題などについて説明を受けるとともに、「アグリビジネスにかける女性たちの取り組み」をテーマに意見交換を行いました。



25 企業立地セミナー



26 タグボート「宮城丸」が就航



27 復興まちづくりパネル展示



28 石巻災害公営住宅

土木部のトピックス

1日：「海の市」復興まちづくりパネル展示（～31日） 27

気仙沼市「海の市」協力のもと、震災から5年目の夏を迎えた復旧・復興まちづくりの状況についてのパネル展を開催しました。

5日：「登米志津川道路」新 IC 事業が認可

三陸自動車道の「登米志津川道路」登米 PA において、登米市からの IC 連結協議を受け、国土交通大臣が整備計画の変更を行いました。

20日：石巻災害公営住宅が完成 28

石巻市黄金浜北地区で整備を進めていた災害公営住宅 92 戸が完成しました。

21日：海岸保全計画の変更

宮城県では、平成 16 年に三陸南沿岸及び仙台湾沿岸の海岸保全基本計画を策定し、防護、環境、利用の調和のとれた総合的な海岸保全を推進してきました。

しかし、平成 23 年 3 月 11 日に東北地方太平洋沖地震が発生し、想定をはるかに超えた津波により、海岸保全施設が壊滅的な被害を受けるだけでなく、多くの尊い人命や財産が失われました。このため、平成 23 年 9 月に関係行政機関で構成される「宮城県沿岸域現地連絡調整会議」において、海岸堤防の高さや構造等の基本的事項を決定し、これに基づき、東北地方太平洋沖地震を踏まえた海岸保全基本計画に変更しました。

27日：第2回貞山運河再生復興幹部会議開催

東日本大震災で甚大な被害を受けた仙台湾沿岸地域の復旧・復興に当たり、復興のシンボルとして誇れる貞山運河を再構築するため、平成 25 年 5 月に「貞山運河再生・復興ビジョン」を策定しました。

このビジョン推進に向け、昨年 8 月に学識者を中心とした「第 1 回貞山運河再生復興会議」を開催しました。今回の「貞山運河再生復興幹部会議」は、「貞山運河再生復興会議」の下部組織にあたり、国・県及び運河沿川市町の行政機関が一同に会し、第 1 回会議での学識者意見などの内容報告や各運河での取組状況に関する意見交換を行いました。

27日：被災建築物応急危険度判定全国連絡訓練の実施

日本海沖連動地震を想定した全国連絡訓練が実施されました。

平成27年度

国・宮城県全体のトピックス

9月

1日：石巻魚市場が運用開始 29

東日本震災により全壊した石巻魚市場が完成し、全棟の供用を開始しました。新しい魚市場は高度衛生管理型を導入した荷捌き施設を備え、これまで以上に安全で安心できる水産物を供給する市場となっており、管理棟の2階にはこの荷捌き施設を見学することができる通路が設けられています。

1日：旧南三陸町防災庁舎一時保存の協定締結 30

県は南三陸町と「旧南三陸町防災対策庁舎の一時保存に関する協定書」を締結しました。東日本大震災により壊滅的な被害を受けた南三陸町防災対策庁舎は、この経験と教訓を示す貴重な財産として、震災から20年後の平成43年3月10日まで県が維持管理の責任を担います。

14日：Ro-Ro 船の海上輸送のトライアルを実施 31

日本製紙株式会社石巻工場は、企業BCPの取組の一環として、従来の鉄道やトラックによる輸送のほかに、海上輸送手段も確保することを目的にRo-Roによる試験運航を行いました。今回のトライアルは、苫小牧港から東京港へ向かうRo-Ro船「神王丸」（総トン数10,980t）に石巻工場出荷する積荷（製紙）をシャーシに乗せ、トレーラーにより積み込む作業で、合計10台（約150t）を積み込みました。

15日：みやぎ復旧・復興工事ゼロ災運動推進大会を開催

復旧・復興工事の本格化とともに増加した労働災害の防止及び意識高揚を図るため、ゼロ災運動推進大会を行いました。



29 石巻魚市場

土木部のトピックス

5日：仙塩浄化センター下水道ふれあいフェア開催

10日：関東東北豪雨（～11日） 32

9月10日遅くから11日明け方にかけて、東北地方や関東地方に発達した積乱雲が停滞し、各地で観測史上最大の記録的な豪雨となりました。宮城県には、東北地方では初となる大雨特別警報が発表され、内陸部を中心に大きな被害をもたらしました。この大雨により、鳴瀬川水系渋井川で堤防が決壊し、約430haが浸水するなど宮城県内で多くの被害が発生しました。

11日：気仙沼保健福祉事務所の太陽光竣工

グリーンニューディール基金を用いて太陽光発電設備を導入しました。これにより停電時において防災用分電盤から緊急対策や県民情報発信のための電力供給が可能となりました。

17日：七ヶ浜町の災害公営住宅が完成

七ヶ浜町葛蒲田浜地区で整備を進めていた災害公営住宅が完成し、引き渡しが行われました。

20日：迫川フェスティバル開催 33

第26回長沼レガッタ会場において、長沼ダムの機能を説明するビデオの上映や迫川改修などのパネル展示を行いました。また、官民協働で、「ダムと水環境に関するクイズ」を実施し、子供たちの長沼ダムへの関心を深めるとともに、長沼ダムの水環境の状況について知っていただきました。



30 旧南三陸町防災庁舎一時保存の協定締結



31 Ro-Ro 船「神王丸」



32 鳴瀬川水系渋井川堤防決壊



33 迫川フェスティバル

平成 27 年度

国・宮城県全体のトピックス

10 月

11 日：「空の日 仙台空港祭 2015」開催

仙台空港にて開催された仙台空港祭において、定期路線が就航する各都市の観光情報を発信し、仙台空港からの空の旅を PR しました。

17 日：ソラ行け旅フェスタ 2015 開催 (～18 日)

仙台市内中心部商店街を会場に、仙台空港から出発する「旅」を紹介するトラベルフェスティバルが開催されました。世界各国や航空会社のブースや民族舞踊や民族音楽などステージイベントで大変な賑わいとなりました。

2 日：戸倉復興道路の一部供用開始

南三陸町戸倉地区において、国道 398 号戸倉復興道路を一部供用開始しました。

4 日：石巻女川インターチェンジ開通 34

三陸自動車道「石巻女川 IC」と「石巻女川インター線」の開通は、石巻市街地の交通渋滞を軽減するとともに、石巻赤十字病院への広域的なアクセスの強化や、女川町を含む石巻圏域の交流・物流基盤の強化、さらには、大規模災害時における避難路としても、重要な役割を果たします。

4 日：名取市「美田園北まちびらき」開催

災害公営住宅、集合住宅等が整備された名取市下増田地区の集団移転先「美田園北」では、住民や市関係者らによる「まちびらき」が開催されました。

6 日：唐桑高田道路県境トンネル工事安全祈願祭

唐桑北 IC—陸前高田 IC 間を結ぶ三陸自動車道のうち宮城県と岩手県の県境トンネル工事の着工にあたり安全祈願祭が行われました。

8 日：宮城県土木部優良建設関連業務表彰式を開催

宮城県土木部発注の建設関連業務のうち、業務成績が特に優れた受注者及び管理技術者を対象に表彰式を行いました。

土木部のトピックス

10 日：石巻浄化センター「流域下水道まつり」開催 35

石巻浄化センターを会場に第 6 回流域下水道まつりが開催されました。今回は天候に恵まれたこともあり、例年をはるかに上回る 2,215 名の来場者がありました。

21 日：住宅フォーラム開催 36

フォーラムでは「住まい」の復興に焦点をしばり、復興の先にある新しいまちづくりのために、建築に関わる者がどのように取り組んでいくべきか、フォーラム参加者も交えて議論を深めました。

28 日：宮城県広域防災拠点基本設計（案）公表

宮城県では、「宮城県広域防災拠点基本設計（素案）」について、平成 27 年 8 月 3 日から平成 27 年 9 月 2 日の間、ホームページ等を通じ県民のみなさまの御意見等を募集しました。この結果、7 名、3 団体で合計 21 件の貴重な御意見・御提言を頂きました。これに対する宮城県の考え方と、御意見等を踏まえて内容の一部を修正した計画の成案を公表しました。

30 日：蔵王レストハウスのサイレンが完成 37

蔵王山の火山活動の活発化に伴い、噴火警戒区域に隣接している蔵王レストハウス周辺の観光客に避難を促すための、サイレン・スピーカーを設置しました。サイレンは約 2 km、スピーカーは約 500m 先まで音が届きます。



34 石巻女川インターチェンジ開通式



35 石巻浄化センター「流域下水道まつり」



36 住宅フォーラム



37 蔵王レストハウスのサイレン

平成27年度

国・宮城県全体のトピックス

11月

20日：水素エネルギーシンポジウム開催 38

「東北における水素社会先駆けの地」として水素エネルギーの普及を目指す宮城県は、初めてとなる「みやぎ水素エネルギーシンポジウム」を開催しました。シンポジウムでは、「水素エネルギーの利活用」をテーマとして、水素エネルギーの普及に向けた取組についてパネルディスカッションを行いました。また、会場ではFCV、家庭用燃料電池（エネファーム）の展示も行いました。

24日：高木復興大臣が南三陸町、気仙沼市、女川町を視察（～25日） 39

南三陸町志津川地区のまちびらきエリアや南三陸病院・総合ケアセンター南三陸などを訪れ、工事の進捗状況を視察しました。

26日：女川町で復興庁「結の場」マッチング開催

ワークショップでは、被災地域企業1社に対し複数の支援提案企業が7つのテーブルに分かれて、対話を行いました。支援提案企業は、被災地域企業から現在抱える課題の説明を受け、質問や課題解決に向けたアイデアが出しました。なお、ワークショップの開始前には、整備中の女川駅前商店街の視察も実施されました。



38 水素エネルギーシンポジウム開催



39 高木復興大臣が女川町を視察



40 「石巻市被災市街地復興土地区画整理事業まちびらき」開催



41 東侍浜海岸工事の竣工式



42 「住宅再建まるごと相談会」

土木部のトピックス

2日：任期付職員辞令伝達式を開催

11月1日付けで採用となった任期付職員の辞令伝達式を開催しました。

2日：被災宅地危険度判定士講習会の開催

被災宅地危険度判定を実施する技術者を養成するため、県内の建築士等を対象に講習会を実施しました。

3日：「石巻市被災市街地復興土地区画整理事業まちびらき」開催 40

新蛇田地区において、整備過程と現状を、市民及び支援をいただいている全国の皆様に実感していただくため、「まちびらき」イベントを開催しました。

5日：東侍浜海岸災害復旧工事の竣工式 41

東侍浜地区海岸（石巻市荻浜地先）は、東日本大震災により、既存堤防が沈下、倒壊するなど甚大な被害が発生しました。これを受けて、早期に施設の機能回復を図るべく、災害復旧工事を実施してきました。工事着工から2年を経て工事は無事に完成し竣工式を開催しました。

15日：国道108号花洲山バイパスが開通

国土交通省が「国直轄権限代行事業」として整備を進めてきた国道108号花洲山バイパスが開通しました。国道108号は、石巻市から秋田県由利本荘市に至る広域幹線道路であり、物流や観光の面で重要な役割を担っています。花洲山バイパスは、交通難所の解消や災害時の迂回路の確保を目的に整備が進められてきました。今回の開通により、災害に強く、安全・安心で快適な交通が確保され、宮城・秋田両県の連携強化と交流促進、地域の産業経済の活性化や観光振興への効果が期待されます。

16日：第2～6次災害査定

（～12月18日）

9月の関東・東北豪雨等により甚大な被害が発生した公共土木施設について5次にわたり災害査定を実施し、県管理分について499件、約138億円の査定決定となりました。

29日：「住宅再建まるごと相談会」開催 42

南三陸町で行われた、宮城県や東北財務局などが主催する相談会に職員を派遣し、県の住宅再建支援制度や各種住宅施策などについての相談に対応しました。

国・宮城県全体のトピックス

12月

6日：仙台市地下鉄東西線が開業

14日：南三陸病院・総合ケアセンター南三陸開設 43

南三陸町の南三陸病院・総合ケアセンター南三陸が開業しました。この施設は、高台の志津川東地区に建設され、内装には南三陸産の杉材を利用し、ほのかな木の香りにより、心身をリラックスさせてくれるものとなっています。敷地内には、病院建設に多大なる御支援をいただいた日本赤十字と台湾紅十字への感謝の気持ちを表す記念碑が建てられました。

18日：復興庁「東北観光アドバイザー会議」設置

東北の観光復興を効果的に推進するため、有識者の意見を聞くことを目的として、復興大臣の委任に基づき「東北観光アドバイザー会議」が設置されました。

26日：水産技術総合センター完成 44

震災で被災した水産技術総合センター種苗生産施設は、七ヶ浜町に場所を移して新築しました。アワビ等の種苗育成のための水槽は大小様々なものを設置し、水温調整のための温水・冷却器や、空気を送るためのブローワーを設置する等、育成状況に対応した水環境を整える設備となっています。

国道 347 号 通年通行化

国道 347 号は 12 月までに延長 11km のうち道路改良区間延長 5.0km、斜面对策区間延長 3.2km 計 8.2km が完了し、通年通行が可能となりました。

1日：泉塩釜線を四車線化

泉塩釜線の多賀城市南宮工区は平成 21 年 4 月に暫定二車線で供用を開始しましたが、震災後、本路線と接続する三陸自動車道多賀城 IC の整備にあわせて、四車線化工事を進めてきました。四車線化により、三陸自動車道と周辺地域のアクセス向上が図られます。



43 南三陸病院・総合ケアセンター南三陸開設



44 水産技術総合センター

土木部のトピックス

13日：国道 4 号線と栗原中央線の開通式

国土交通省及び栗原市が整備を進めてきた国道 4 号築館バイパス及び市道栗原中央線の開通式が行われました。栗原市街地における交通渋滞の解消、通勤通学時の安全確保や栗原中央病院へのアクセス向上に加え、市の東西交通軸として栗原市の豊かで活力ある地域づくりに寄与するものです。

14日：被災建築物応急危険度判定技術者講習会の開催

被災建築物応急危険度判定を実施する技術者を養成するため、県内の建築士等を対象に講習会を実施し、今年度は 4 回開催しました。

15日：舞根トンネル銘板に寄せ書き
(～17日)

気仙沼唐桑線「東舞根復興道路」の供用開始を前に、近隣の唐桑小学校へ通う児童たちに自分の住む街の復興の姿に関心を持ってもらうために、トンネル銘板の裏面に将来の夢などを寄せ書きするイベントを開催しました。

19日：第 6 回復興加速化会議開催

第 6 回復興加速化会議が開催され、石井国土交通大臣ほか、村井知事、岩手県知事、福島県副知事、仙台市長などが出席し、工事の入札不調対策などについて話し合いが行われました。

20日：仙台東部道路「名取スマート IC」着工式

名取中央スマート IC は仙台東部道路「仙台空港 IC～名取 IC」間に位置しており、周辺道路の渋滞緩和、物流拠点の機能強化や企業誘致による雇用の創出など、地域の産業経済に大きな波及効果が期待されています。

23日：「女川駅前商業エリア」開業

「おながわ復興まちびらき」開催 45

駅前商業エリアにおいて、150 人収容のホールや音楽スタジオなどを備える「女川町まちなか交流館」と、小売店や飲食店、工房などが並ぶテナント型商業施設「シーバルピア女川」に加え、自立再建店舗の開業を祝して、「おながわ復興まちびらき 2015 冬」イベントを 5 日間に渡って開催しました。たくさんの町民や、来町者で連日にぎわいました。



45 シーバルピア女川

平成27年度

国・宮城県全体のトピックス

1月

7日：石巻市津波避難タワーの完成

石巻市魚町で津波避難タワー2基の完成報告会が開催されました。タワーの整備により災害時における安全性の確保が期待されています。

22日：『21世紀文明シンポジウム「減災」—東日本大震災から5年—』開催

東日本大震災から5年の節目となることから東北大学にてシンポジウムが開かれました。約560名の参加があり、積極的な意見交換が行われました。



46 協定式



47 荒谷前地区海岸災害復旧工事



48 住宅・社会資本再生復興フォーラム



49 常磐自動車道「山元南スマートIC」着工式

土木部のトピックス

仙台空港アクセス鉄道利用者数が過去最高

平成27年1月～12月における仙台空港アクセス鉄道利用客数について、開業以来最高の336万人を記録しました。また、仙台空港の乗降客数は、3年連続300万人を突破し、今年度は315万人を記録しました。

仙台塩釜港コンテナ貨物取扱量22万TEU突破 震災以降最高を記録

平成27年1月～12月における仙台塩釜港コンテナ貨物取扱量は、約22万5千TEUを記録しました。22万TEU台を記録するのは、仙台塩釜港においてコンテナ貨物の取扱いを開始して以来初めてであり過去最高の取扱量となりました。

14日：東北大学インフラマネジメント研究センターと協定を締結 46

近年、社会資本や公共施設の維持管理及びこれらを担う人材の育成が喫緊の課題となっており、地域社会の持続的発展と県民の福祉の向上に寄与することを目的に、相互に連携・協力を図るため協定を締結しました。

21日：荒谷前地区海岸災害復旧工事の竣工 47

荒谷前地区海岸は、背後の住宅や国道45号、下水処理施設などを保全するため、平成25年10月から災害復旧工事に着手し、気仙沼管内初のL1堤防として無事工事が完成したことから、地元住民、工事及び行政関係者の出席のもと竣工式を行いました。

22日：住宅・社会資本再生復興フォーラム開催 48

本フォーラムは、宮城県における震災復興の取組を広く発信するとともに、その取組を宮城のさらなる発展に繋げていくことを目的として、震災後2年目の平成24年度から毎年開催しています。4回目となる今回のフォーラムでは、東日本大震災からまもなく5年を迎える今、現在の復旧・復興状況についての報告が行われました。

また、講演では「東日本大震災から真の復興を果たすために」と題して、増田聡教授(東北大学大学院震災復興研究センター長)から御講演を頂き、これまでの震災への検証を踏まえながら、真の復興を果たすために、今後5年間で何をすべきかなどについての提言を頂きました。

30日：常磐自動車道「山元南スマートIC」着工式 49

「山元南スマートIC」は、常磐自動車道「山元IC～新地IC」間に位置しており、搬送時間の短縮による周辺地域の企業誘致の展開や、関東方面からのアクセス性の向上による観光客の増加などが期待されています。

平成 27 年度

国・宮城県全体のトピックス

2月

11日：復興庁「新しい東北交流会 in 仙台」開催

東北で「新たな挑戦」に取り組む様々な世代・地域・団体の方々と交流する場として「新しい東北」官民連携推進協議会の主催により「新しい東北交流会 in 仙台」が開催されました。過去最大の80を超える団体が参加し、それぞれの「新たな挑戦」を紹介しました。

21日：安倍首相が宮城県を視察

安倍首相は塩竈市で塩釜水産物仲卸市場の朝市を視察し、その後、石巻市で新蛇田地区災害公営住宅・防災集団移転宅地及びかき生産者を視察しました。さらに、女川町で中心部地区復興土地区画整理事業を視察しました。



50 安倍首相が宮城県を視察



51 仙台国際貿易港首都圏セミナー



52 石巻合同庁舎の完成イメージ



53 気仙沼合同庁舎完成イメージ



54 雄勝港「浪板防潮堤」



55 「伝承プロジェクト」草津市で講演

土木部のトピックス

1日：仙台空港の一部民営化開始

仙台国際空港株式会社が、平成28年2月1日付けで仙台空港ビル株式会社及び仙台エアカーゴターミナル株式会社の全株式を取得し、完全子会社化することによりビル施設等事業を開始しました。

10日：仙台国際貿易港首都圏セミナーの開催

仙台塩釜港の近郊には、自動車関連産業が集積しているほか、交通ネットワークの充実やモーダルシフトの進展等もあり、今後、さらなる発展が期待されています。このような状況を踏まえ、仙台塩釜港のさらなる飛躍を目指し、今年度もセミナーが開催されました。セミナーでは、宮城県による仙台塩釜港の紹介や仙台塩釜港を利用している荷主企業等による講演が行われました。

16日：国際フィーダーコンテナ航路数が過去最高

仙台港区と東京港間で新たに国際フィーダー航路が増え、過去最高の9航路となりました。

18日：石巻合同庁舎（新）・気仙沼合同庁舎（新）に着工

震災による津波で被災した石巻合同庁舎及び気仙沼合同庁舎の移転・新築事業の各工事の契約が2月議会で議決され、工事の着工に向けて動き出しました。

19日：雄勝港「浪板防潮堤」完成

浪板防潮堤は、東日本大震災により被災した雄勝港（石巻市雄勝町）の防潮堤としては最初に完成しました。浪板防潮堤の前面の砂浜は海水浴スポットとなっていることから、地域住民、地域づくり支援団体「ナミイタ・ラボ」の意見を取り入れ、防潮堤の階段部分や展望スペースには、地域住民が自ら加工した玄昌石を使った波板地区らしい意匠が施されており、地域の方々と一緒に作り上げた防潮堤となっています。

24日：「伝承プロジェクト」草津市で講演

東日本大震災後の対応や教訓、取組等について1県3市で「伝承プロジェクト」と題した報告会を全日本建設技術協会の協力のもと開催しました。

平成27年度

国・宮城県全体のトピックス

3月

11日：東日本大震災から5年
(みやぎ鎮魂の日)

29日：スマート水素ステーション開所式 56

「創造的な復興」に向けた重点施策の一つとして、東北初となるスマート水素ステーションの整備及び燃料電池自動車3台が導入されました。

4日：気仙沼警察庁舎完成 57

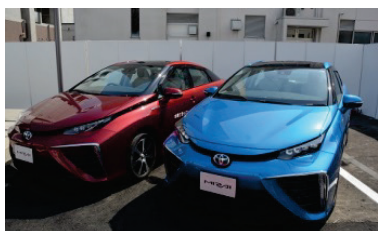
気仙沼市南郷にあった気仙沼警察署は、東日本大震災の津波で浸水し使用不能となったため、仮設庁舎で業務を行ってきました。新庁舎は旧庁舎から約500m離れた気仙沼市赤岩杉ノ沢(旧鼎が浦高校跡地)に移転新築され、3月22日から業務を開始しています。

5日：仙台湾南部海岸完成式 58

東日本大震災で被災した仙台湾南部海岸の堤防復旧旧工事は、延長L=29kmのうち9割以上が完成し、残る区間についても平成28年度内の完成予定となっています。完成式では、事業経過説明の後、地元の仙台私立荒浜小学校校児童による「大好きな荒浜の海」と題した作文の朗読があり、完成を祝いました。

12日：古川松山線「志田橋」供用開始

平成19年度から橋りょうの架け替え整備を進めてきた古川松山線「志田橋」が、供用を開始しました。古川松山線は、緊急輸送道路にも指定されている重要な路線であり、新たに架け替えられた「志田橋」の供用開始により、災害に強く、安全・安心で快適な交通が確保されました。



56 スマート水素ステーション開所式



57 気仙沼警察庁舎



58 仙台湾南部海岸



59 貞山運河「桜」植樹祭

土木部のトピックス

19日：貞山運河「桜」植樹祭を開催 59

多賀城市貞山公園において、「貞山運河再生・復興ビジョン」に基づく桜植樹会を開催しました。貞山運河への桜植樹は、東日本大震災からの復興の象徴となるとともに津波防災意識の醸成や未来への震災体験の伝承を目的として官民連携で取組むことを基本としています。

19日：常磐自動車道「鳥の海スマートIC」
開通

亘理町とNEXCO東日本仙台工事事務所において整備を進めてきた常磐自動車道「鳥の海スマートIC」が開通しました。鳥の海スマートICは亘理町の中心部に位置し、近隣には、亘理中央地区工業団地、観光地の鳥の海などがあり、企業誘致や雇用の促進、観光集客の増加などが期待されます。

24日：東舞根復興道路の供用開始

気仙沼唐桑線の東舞根復興道路は復興交付金道路事業としては宮城県初の完成となり、地域住民の利便性向上や地域の活性化、災害時における孤立解消や緊急避難道路としての役割が期待されます。

25日：女川湾口防波堤が完成 60

東日本大震災の津波により、甚大な被害を受け県内唯一の津波防波堤である女川湾口防波堤が完成し、漁港・港湾施設が概成する運びとなり、女川町の復興を地域の皆様に広くお伝えするため、完成式典を開催しました。

27日：多賀城IC 供用開始及び仙塩道路四
車線化

28日：「道の駅 SPOT サービス」が開始

仙台河川国道事務所では、道の駅「三本木」、「上品の郷」、「津山」、「あ・ら・伊達な道の駅」において、「道の駅 SPOT」を整備しました。無料公衆無線LANを活用して周辺の「交通情報」「気象・災害情報」など様々な情報にアクセス可能です。



60 女川湾口防波堤

宮城県土木部
東日本大震災
5年間の復旧・復興の記録

//////////////////// 平成23年度～平成27年度 //////////////////////
発災から5年間の公共土木・建築施設の復旧・復興と
創造的復興に向けた取組

平成29年3月

編集：宮城県土木部土木総務課

〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3丁目8-1

TEL:022-211-3108

FAX:022-211-3199

Email:dobokgk1@pref.miyagi.lg.jp